

【2025 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間発達学		(リ) 必修 (人) 選択	2	(リ理) 1 (リ作 23) 2 (リ作 24) 1 (人-24) 1 (人 25-) 1.2	後期 後期 (集中) ※リ作 23 用
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
渡辺 俊太郎	C318	shuntaro.watanabe	月曜日 13:00~14:30		
授業の目的・概要	人間の乳幼児期から老年期までの心身の発達、環境との相互作用、発達課題について理解を深めることができる。教育学、心理学、生理学理論を基に人間の発達を段階ごとに分けて理解することができる。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	人間を身体と精神の両面から生涯発達する存在として捉え、ライフステージにおける発達過程を講義する。また、目と手の協調・日常生活動作 (食事・排泄・更衣)、遊び・社会性の発達を深く掘り下げる。特に原始反射、姿勢反応と乳児の運動発達過程については予習・復習を行ってほしい。				
教科書	イラストでわかる人間発達学 /監修: 上杉雅之 /医歯薬出版 /2015				
参考書	人間発達学 改訂 6 版/編集: 福田恵美子/中外医学社/2022				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	原始反射と姿勢反応について理解し、説明できる			HSU(2)	RH(2)
②	乳児の運動発達過程を理解し、原始反射と姿勢反応との関係性について説明できる			HSU(2)	RH(2)
③	各ライフステージにおける発達課題と危機について理解し、説明できる			HSU(1)、(2)	RH(2)、(4)
④	各ライフステージにおける発達の連続性について理解し、説明できる			HSU(1)、(2)	RH(1)、(2)
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	リハビリテーションにおける発達の重要性を学習する	講義・演習	授業計画をたてる	4	
2	発達概念について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 1 章)	4	
3	発達理論について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 2 章)	4	
4	乳児期の認知・運動・社会性について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 5.6.7.8 章)	4	
5	乳児期の認知・運動・社会性について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 5.6.7.8 章)	4	
6	幼児期の認知・運動・社会性について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(9 章)	4	
7	幼児期の認知・運動・社会性について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(9 章)	4	
8	学童期の認知・運動・社会性について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 14 章)	4	
9	青年期の認知・運動・社会性について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 14 章)	4	
10	成人期・高齢期の認知・運動・社会性について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 14 章)	4	
11	姿勢反射/反応について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 4.10 章)	4	
12	姿勢反射/反応について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 4.10 章)	4	
13	上肢機能・ADL について学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 12 章)	4	
14	発達検査について(遠城寺、GMFCS、デンバー、PEDI)学ぶ	講義・演習	教科書を読む(第 3 章)	4	

【2025 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

15	まとめ	講義・演習	教科書を読む(P239～P272)	4
試	定期試験 達成度評価 評価ポイントを参照			

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		70	0	0	0	30	100
総合 力 指 標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	20	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	10	0	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	10	0	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	定期試験を実施して評価する。ライフステージにおける発達過程と課題、ライフステージ間の関連性について問う。	試験問題および回答用紙の返却
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	✓	各ライフステージにおける知識や理論の習熟度を測るために、授業時間内に小テストを実施する。授業で得た知識に対して、思考・創造、推論、表現する力、課題に取り組む姿勢・意欲、問題を発見・解決する力を評価の対象とする(30%：数回実施)	授業内で得た知識の臨床での応用方法について授業内で情報共有する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	なし
教員の実務経験	発達領域と成人領域の作業療法士として20年以上の臨床経験
実践的授業の内容	臨床現場における最新情報と共に、その専門性を学生に提供する。
そ の 他	授業は対面授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。 受講態度に問題がある学生は退室をしてもらうので注意すること。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性がある。